

平成28年度 第3回 ほたる多職種研修会

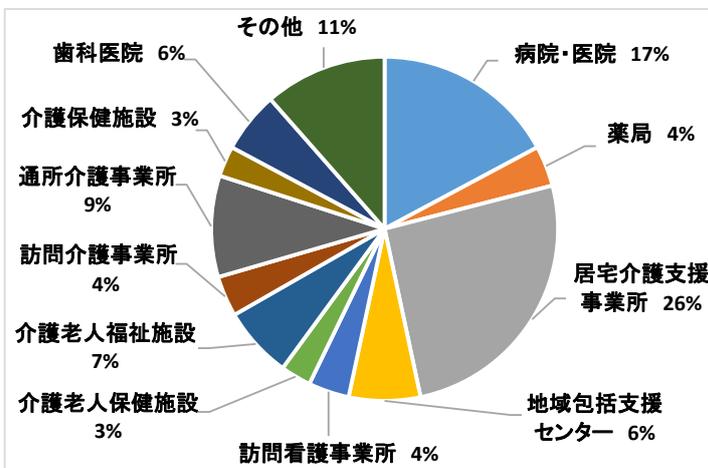
平成28年12月21日(水) 18:30~20:00

テーマ「統合失調症を理解しよう」～実践で役立つ知識・情報～

参加者:117名 アンケート協力者:105名 回収率:89.7%

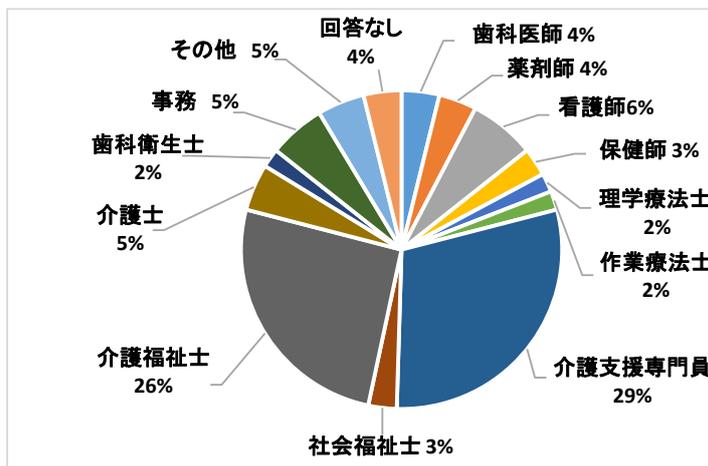
所属

病院・医院	18
薬局	4
居宅介護支援事業所	27
地域包括支援センター	7
訪問看護事業所	4
介護老人保健施設	3
介護老人福祉施設	7
訪問介護事業所	4
通所介護事業所	10
介護保健施設	3
歯科医院	6
その他	12
合計	105



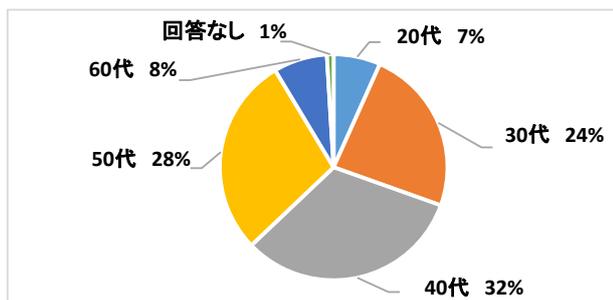
職種 (複数回答)

歯科医師	4
薬剤師	4
看護師	7
保健師	3
理学療法士	2
作業療法士	2
介護支援専門員	31
社会福祉士	3
介護福祉士	27
介護士	5
歯科衛生士	2
事務	6
その他	5
回答なし	4
合計	105



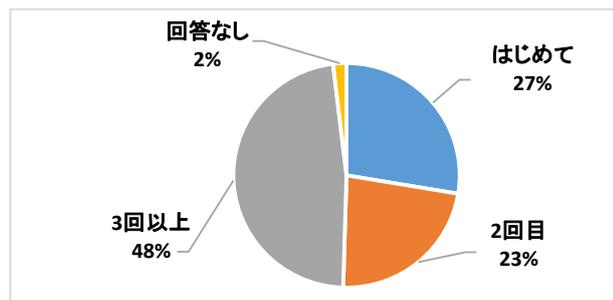
年代

20代	7
30代	25
40代	34
50代	30
60代	8
回答なし	1
合計	105



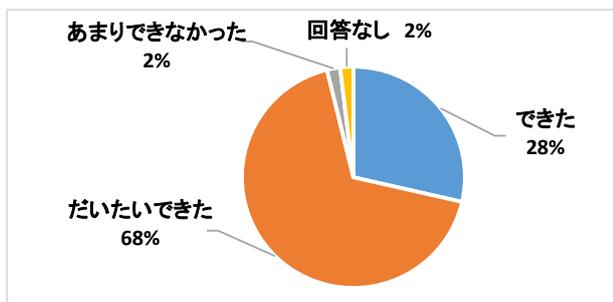
ほたる多職種研修会への参加回数

はじめて	29
2回目	24
3回以上	50
回答なし	2
合計	105



I. 研修会の内容は理解できましたか。

できた	30
だいたいできた	71
あまりできなかった	2
回答なし	2
合計	105

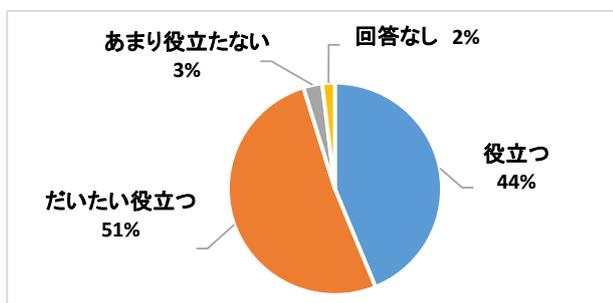


その理由

- ・ 事例や図を用いた説明が分かりやすかった。
- ・ 専門的な知識を分かりやすく説明していただけて良かった。
- ・ 統合失調症の方への支援や対応方法を学ぶことができた。
- ・ 治療やストレスとの関係についての説明がとても分かりやすかった。
- ・ 薬物の治療と合わせ、心のケア(自己決定の関わり)が大切だという事を学べた。
- ・ 統合失調の方には自己決定が大事で、支援する側が不確実な状況に対応して自己決定を促していかなければならないと思った。

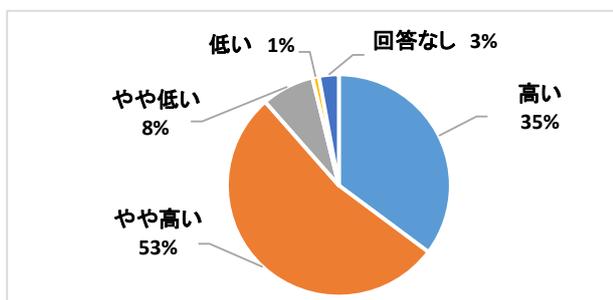
II. 研修会で学んだことは実践の中で役立ちますか。

役立つ	46
だいたい役立つ	54
あまり役立たない	3
回答なし	2
合計	105



III. 研修会に参加して全体的な満足度はどの程度でしたか。

高い	37
やや高い	56
やや低い	8
低い	1
回答なし	3
合計	105

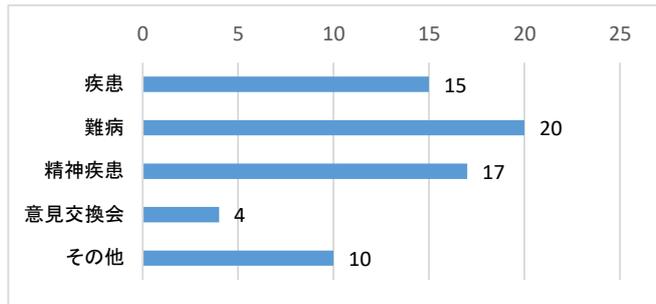


その理由

- ・ 事例や図がとても分かりやすかった。
- ・ 専門的なテーマで興味深かった。
- ・ 貴重な話を聞いて知識を得られた。
- ・ 精神疾患に対する理解ができた。
- ・ 統合失調症の症状やサイクル、現在の治療法が分かって良かった。
- ・ 知っているようで知らなかった病気について詳しく学ぶことができた。
- ・ 解決困難事例に対し参考になった。
- ・ 実際に関わっている患者さんを思い描きながら講義を受けた。今後の関わりや支援の方向性を知ることができた。
- ・ 一方的な医療提供ではなく、自己決定や自立を促せるよう接したいと思った。
- ・ 自己決定することの重みを感じた。本人が納得した内容で関われば、症状が改善されるケースがあることを知れた。これからは本人の気持ちを聞き取る事からはじめたいと思う。
- ・ 精神疾患について再学習できた。関わる機会は少ないが、重複障がいの方もいるので参考にしていきたい。
- ・ 地域での生活者と捉えたときに各専門職の役割はどうか、今回の研修を参考に考えていきたい。
- ・ 統合失調症でない方でも、自立の促しや導きが大切だと思った。
- ・ 自分自身の気持ちの不安定なことにもつながれると感じた。
- ・ 精神から高齢になり介護に進んで来るケースが増えている。人の心や病気の基礎から知らないと、その人を苦しめてしまうと思った。

IV. 今後取り上げてほしいテーマについて。(複数回答可)

疾患	15
難病	20
精神疾患	17
意見交換会	4
その他	10



各項目の内容として

◆疾患

- ・認知症×3
- ・リウマチ×2
- ・発達障害
- ・アルツハイマー病
- ・がん
- ・呼吸器
- ・糖尿病
- ・腎ろうpt

◆難病

- ・パーキンソン病×10
- ・筋ジストロフィー
- ・クローン病、大腸性出血
- ・膠原病
- ・全身性エリテマトーデス
- ・ナルコレプシー
- ・難病の社会資源の活用など

◆精神疾患

- ・うつ病×4
- ・老人性うつ病
- ・躁うつ病
- ・ADHD
- ・ピック病
- ・解離
- ・自閉症
- ・発達障害
- ・パーソナリティ障害

◆意見交換会

- ・訪問看護事業所と居宅介護支援事業所×2
- ・医療と介護支援専門員

◆その他

- ・疾病と栄養摂取について
- ・レビー小体型認知症について
- ・帰宅願望の方の対処法について
- ・病院を退院した時の地域での生活について
- ・家族とのコミュニケーションについて
- ・疾病のある高齢者をかかえる家族を支援する方法・傾聴方法などについて
- ・ALS、多系統萎縮症、アルツハイマー、脊髄小脳変性症など、急性性の疾患の症状緩和や進行の防ぎ方について
- ・老人の心理(老いの受け入れ方、受け止め方)など、それを専門職としてどのように支援すればよいか、いろいろな人の工夫や事例などについて
- ・認知症や精神疾患の薬について(暴言暴力のある方が長谷川式スケールで認知症ではないと精神的な薬を処方され、本人のADL低下がみられるようになった。精神に関する薬は難しいと感じている。)
- ・ガン末期で在宅生活に戻る方との接し方について。(近年そういった方が増えており、介護支援専門員として接し方に悩むことがある。特に高齢者ではなく2号被保険者の方は精神面で声のかけ方や内容に悩むことが多い。)

V. その他、研修内容に関する意見や感想

- ・実臨床における話を織り込んで頂き、大変参考になりました。
- ・長々とお話される方には「時間が決まっている」と伝えても良いのだということが参考になった。
- ・統合失調症と聞くと関わりが難しいと思ってしまっ面があったが、そうではなく、私たちから心を開いて一人ではないんだよと支援を考えていくことが重要だと感じた。そのためにも今回のような病気に対する理解が必要だと改めて実感した。
- ・高齢者の場合、統合失調症的な症状と認知症からの症状の区別がつきにくいので、その点について専門家の所見を次回伺いたいです。
- ・歯科医院に勤めているので実際の仕事に疾患のある患者さんと会うことはありませんが、心療内科の薬を服用している患者さんも多く、自分自身も心療内科に数年お世話になったことがあるので、興味があり参加しました。大変興味深く、分かりやすく拝聴しました。
- ・興味深く、あっという間の1時間でした。ありがとうございました。
- ・時間があればまた参加したいです。研修会ぜひ続けてほしいです。
- ・とても良かったです。ありがとうございました。
- ・年末の忙しい中、企画・運営お疲れ様でした。